



学校だより

CONTENTS

巻頭言 入学おめでとうございます！／校長 大金 伸光	2
特集＜入学・進級特集＞	
新入生へのメッセージ／留学生紹介	3
入学にあたり	6
教職員より（各学科・教育研究支援センター）	12
着任の挨拶	14
退任の挨拶	15
本科・専攻科学校行事一覧	15
売店リニューアル	15
各施設から	16
学生相談室／図書館／国際交流室／ダイバーシティ推進室／	
情報基盤センター／インターンシップ支援室／進路支援室／	
産学連携アントレプレナーシップ教育工房／	
地域連携テクノセンター	
NEWS&TOPICS	19

第138号

2026. 6.22 広報委員会発行



独立行政法人 国立高等専門学校機構
群馬工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Gunma College

〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580番地 <https://www.gunma-ct.ac.jp/>

（題字・下田 功 初代校長）



巻頭言 入学おめでとうございます！



校長
大金 伸光

本科及び専攻科の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年度、本科生209名、留学生3名、編入学生1名、専攻科生39名、あわせて252名を本校にお迎えすることになりました。

新入生の皆さん、入学してから数か月が経ちましたが、新しい環境には慣れてきましたでしょうか？悩みごとは、自分ひとりだけで抱え込まず、先生やご家族、先輩、友人などの周りの人に相談するようにしましょう。

高専では、皆さんの自主性が尊重されます。勉強においても、生活においても、自ら考え、行動することが大切になります。是非、そのようなことを意識して、

これからの学校生活を送っていただきたいと思います。

理工系の勉強は、基本的に積み上げです。日々の授業に集中するとともに、日頃から自学自習の習慣を身につけ、受け身の姿勢で指導を待つのではなく、明確な目的意識を持って、自ら学んでいこうという前向きな姿勢で学修に努めて下さい。

高専での生活は、勉学以外でも多くのことを学べる時間でもあります。学校行事やクラブ活動、国際交流活動、学内外のコンテストなどにも積極的にチャレンジしてみましょう。そのようなチャレンジを通して、教職員や先輩、友人、企業や自治体など学外の方々などと交流したり、失敗も含め、試行錯誤したりする経験は、皆さんの今後の人生において、大きな財産になると思います。

皆さんの夢や目標が実現できるよう、教職員もできる限りサポートしていきますので、一緒に頑張ってください！

特集

〈入学・進級特集〉新入生へのメッセージ



教務主事
佐々木 信雄

充実した高専生活のために

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この学校だよりが発行される頃には、群馬高専にも慣れ、学校生活を満喫しているのではないのでしょうか。

ただ、ちょっと待ってください。中間テストの結果はどうでしたか？ 毎日勉強時間を確保していますか。難しい箇所を残していないのでしょうか。1年生の科目は、高学年での基礎になります。手を抜くと後が大変です。

では、どうしたらいいのでしょうか。放課後、みんなで教え合うのもいい方法です。しかし、それが苦手な人は、まず、静かに勉強できる場所を探してください。次に、宿題・レポートを終わらせます。あとは、問題集を繰り返し解きましょう。分からない所は聞いてください。勉強の習慣が身につけば、安心して課外活動にも打ち込み、充実した五年間を過ごせると思います。頑張ってください。



学生主事
高橋 徹

ご入学おめでとうございます

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、どのような学生生活を送りたいと考えているのでしょうか。すでに明確なビジョンを持っている人もいれば、まだそこまで考える余裕がない人もいるかもしれません。

皆さんには、さまざまな分野で積極的にチャレンジしてほしいと思います。私が大学院生になったばかりの頃、恩師から「若いうちは失敗しても恥ずかしくないのだから、積極的に行動するとよい」と言われました。その時は正直あまり実感がありませんでしたが、年齢を重ねるにつれ、「この歳で大きな失敗はできない」「これまでに築いてきた実績や信頼を損ないたくない」といった思いから、行動に慎重になる自分を感じるようになりました。

皆さんには、今しかできない挑戦があります。失敗を恐れず、自分がやりたいと思ったことに積極的に取り組んでください。



寮務主事
山内 啓

常にチャレンジを

1年生の皆さん、入学おめでとうございます。

高専は、勉強面だけでなく、自分自身を高めるきっかけにあふれた場所です。学校祭や体育祭といった学校行事、部活動などに積極的に参加し、仲間と協力する中でチームワークの大切さを学んでください。また、全国規模の体育大会やロボットコンテスト、プログラミングコンテストなど、さまざまな舞台で自分の実力を試すこともできます。

高専は5年一貫教育であるため、大学受験に学習が中断されることなく、早くから専門工学を学び、優れた技術者へと成長することができます。一方で、受験という大きな節目がないからこそ、惰性に流されてしまう恐れもあります。

ぜひ、自分自身の将来像を明確にし、目標を持って日々を過ごしてください。さまざまな人と積極的にコミュニケーションを取り、視野を広げ、有意義な高専生活を送ることを期待しています。



専攻科長
友坂 秀之

ようこそ、群馬高専へ、専攻科へ。

本科および専攻科の新入生のみなさん、ご入学、おめでとうございます。この「新入生への言葉」を目にするのは、校内では桜、そしてハナミズキの賑わいが過ぎ、あじさいが華やかでいる6月下旬、梅雨の時期と思います。入学してはや2ヶ月、入学式のときと今とで、心境はいかがでしょうか。入学式の新鮮な気持ちを忘れることなく、日々を過ごしてほしいと思います。悩みながらも日々の努力を怠らない、可能性溢れる未来へと向かう、そんなみなさんをわれわれ教職員は支えます。

疲れたときには、休みましょう。息抜きや気分転換は大切です。一方、ときには、精一杯ふんばって、無理をすることも大切です。限界に挑戦し、それまでの自分を超える努力も大切です。とはいえ、限度があります。度を超すと、ケガをします。ケガをしないように、みんなで支え合いましょう。その先の卒業式、修了式が楽しみですね。



校長補佐
(研究・地域連携推進担当)
石川 英司

出会いと越境が、新しい学びを生む

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境での生活が始まり、期待と不安が入り交じる時期かと思います。しかし、その一つ一つの出会いが、これからの皆さんの成長を大きく支えてくれるはずです。

現代の科学技術は、一つの専門分野だけで完結するものではありません。これからの時代に求められるのは、まず自分の専門をしっかり深め、その上で周辺分野にも関心を広げる「T型人才」です。さらに、複数の専門性を持ち、それらをつなぎながら新しい価値を生み出す「 π 型人才」の重要性も高まっています。

高専には、多様な専門分野を学ぶ仲間や先生方がいます。ぜひ学科の枠を越えて交流し、多くの考え方や知識に触れてください。専門を深めることと、分野を越えて学ぶこと、その両方の積み重ねが、将来の大きな挑戦や創造につながります。皆さんの5年間で、実り多いものになるよう心から応援しています。



校長補佐 (広報戦略担当)
大岡 久子

「成功」の捉え方

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。群馬高専へ一歩踏み出したこと、それ自体がまずは1つの「成功」です。しかし1つの成功は、新たな成功への道の始まりでもあります。それでは、これからの高専生活における「成功」とは何でしょうか。実験や実習で予想外の結果が出ることは日常茶飯事です。それは決して「失敗」ではありません。科学の世界では、思い通りにいかない結果も「この条件ではうまくいかない」と証明された価値のあるデータとなります。このデータを得ることこそが、研究・技術の世界における成功の1つだと言えます。つまり、高専生活での歩みすべてが「成功」の積み重ねだと思えます。

失敗を恐れず、まずはやってみる。試行錯誤の数だけ、皆さんの技術者としての視点は鋭くなります。壁にぶつかり、そこから学びを得るプロセスこそが学びの本質です。どんな経験も糧にするしなやかで折れない心を、共に育てていきましょう。



校長補佐 (評価・FD担当)
荒川 達也

驚こう！

御入学おめでとうございます。みなさんはいま、高専生活の期待とともに勉強への不安も抱えていることと思います。確かに高専での勉強は簡単ではありません。精一杯努力しても思うような結果が出ず、くじけそうになることもあるでしょう。しかしそんなときでも忘れないで欲しいのは、勉強には驚きがあふれているということです。一見解けそうになかった数学の難問が、ほんの小さなアイデアで鮮やかに解けたときの感激。一所懸命覚えた文法や単語を使って誰かとコミュニケーションする喜び。教室で習った通りの実験結果が出たときの感動と、予想外の結果が生じたときの衝撃。等々。高専は驚きに満ちています。高専5年間、思う存分驚き、その驚きを自分の力に変えて下さい。そしていつかみなさんは、「自分はここまでできた」と、自分自身に驚くでしょう。期待しています。



後援会会長
石井 宏



学生会会長 4C
小林 孝太郎

この夏、何に挑戦する？

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
入学式から数か月が経ち、特別だった日々も少しずつ日常として感じられるようになってきた頃でしょう。新しい環境や友人にも慣れ、初めてのテストも終えて、自分なりのペースがつかめてきた人も多いのではないのでしょうか。

さて、8月にはいよいよ長い夏休みが始まります。高専では、夏季休業と学年末休業だけでも5年間で300日以上あります。その時間をどのように過ごすかで、学生生活の充実度は大きく変わります。長い休みだからこそ、そして学生だからこそできる挑戦が、きっとあるはずです。今のうちから思いを巡らせ、やってみたいことや挑戦したいことを考えてみてください。

これからの毎日、そして高専での学びが、皆さんにとって実り豊かで、充実したものとなることを心より願っています。

これから広がる高専での5年間

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい学校生活が始まり、少しずつ学校にも慣れてきた頃でしょうか。中学校までとは違い、90分授業をはじめ、専門的な授業や実験・実習など、新しく経験することも多くあったと思います。最初は戸惑うことや不安に感じることもあるかもしれませんが、少しずつ自分のペースで慣れていけば大丈夫です。部活動や愛好会には所属しましたか。勉強だけでなく、部活動や学校行事、さまざまな活動を通して学年や学科を越えたつながりができるのも高専の大きな特徴です。困ったときは、担任の先生や学生相談室、知り合った先輩や友達など、身近な人をぜひ頼ってみてください。5年間という長いようで短い時間の中で、自分の興味を広げたり、新しいことに挑戦したりできる機会が多くあります。さまざまな経験を重ねながら、自分らしい高専生活をつくっていきましょう。皆さんのこれからの活躍を心から応援しています。

留学生紹介



留学生 3J
**アティナットラタナポン
ウィーラウィット**

複雑な感情

「過去のことを忘れずに、また未来に進んでいく」これは僕の美学です。
みなさん、はじめまして。スンと申します。今年より、僕は群馬高専の電子情報工学科の学生として、勉学に励んでいきたいと思っています。自分の地元を離れて生活することに、不安を感じることもあると思います。しかし、人生は楽なことばかりではありませんし、その分だけ成長できる機会も増えるのだと信じています。困難や壁にぶつかることもあるでしょうが、それを乗り越えることで、自分自身をより強くしていけると思います。また、日本での生活においては、言語や文化など、さまざまな面で適応しなければならないことも多くあります。それでも、先生方をはじめ、先輩方、そして同級生のみなさんのおかげで、どれだけ群馬高専での生活が大変であっても、「自分は一人ではない」と感じることが出来ます。そのように、辛さや不安の中にも、どこか安心や支えを感じられるこの気持ちは本当に「複雑」です。



留学生 3K
コアム デーヴィット

新しい環境の中で

新しい環境での生活にも少しずつ慣れてきた頃かと思いますが、皆さんにご挨拶申し上げます。高専での生活は新しいことばかりで戸惑うこともありましたが、日々の経験を通して成長していきたいと感じています。勉強や課題は簡単ではありませんが、一つ一つ乗り越えて力をつけていきたいです。また、群馬県での生活を通して地域の魅力を知り、文化や習慣への理解を深めたいです。さらに、コミュニケーションを大切に、相手を尊重する姿勢を忘れず、充実した日々を送りたいです。これからどうぞよろしくお願いいたします。



留学生 3C
アレクサンドラ ハルナ

よろしく、群馬高専

日本を訪ねること、そこで勉強することは私にとって最も大きな夢の一つでした。その夢を叶えたことが、まだ信じられないぐらい嬉しいです。インドネシア出身のルナです。環境都市工学科の3年生です。奨学金を頂き、ここで学ぶ機会を得られたことに、何より感謝申し上げます。一年間日本語学校へ通い、群馬高専に進学することになりました。これから様々な専門科目や一般科目を受け、自分の専攻について知識が深まっていくことを期待します。

しかし、この生活は順調に進むとは限りません。全ての講義を日本語で理解し、生活はほとんど日本語で送るなどのプレッシャーを非常に感じています。それでも、その苦勞からこそ、大切な教訓が得られると信じています。これから、失敗を恐れずに群馬高専で様々な挑戦をしてみたいです。先生方、事務の方々、先輩方、そして同級生の皆さん、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



(教員左から 副担任、大金校長、正担任)



(教員左から 副担任、大金校長、正担任)

interview

Teacher

1年生の皆さんへ

1年1組 正担任 熊谷 由里子

1年生の皆さん、入学おめでとうございます。新しい環境に期待と不安が入り混じっていることでしょう。高専での5年間は、知識だけでなく、自分で考え、仲間と協力し、失敗から学ぶ力を育てる時間です。授業や実験、部活動や寮生活を通して、多くの出会いと経験が待っています。困ったときは一人で抱え込まず、周囲を頼ってください。私も皆さんの成長を全力で支えます。挑戦を恐れず、自分の可能性を信じて、少しずつ前へ進んでいきましょう。日々の小さな努力は、いつか必ず自分に返ってきます。焦らず、比べず、自分のペースを大切にしてください。困難に直面しても、学ぶ姿勢を忘れなければ、道は必ず開けます。一日一日を大切に、充実した学生生活を送りましょう。

Student

“好き”が本気で変わる世界で

1年1組 機械工学科 宮川 空

群馬高専に入学してまず強く感じたのは、これまでの学びとはまったく異なる空気が広がっているということでした。専門科目の授業が多く、見たこともないような内容に戸惑う場面もありましたが、その一方で「本当に技術を学んでいるのだ」という実感が湧き、毎日が新しい発見の連続になっています。とくに実習では、自分の目の前で専門の道具を見るだけでなく、実際に使いながら理解を深めていく過程がとても刺激的です。こうした体験を通して、学ぶことの面白さと奥深さを改めて実感しています。

入学前は不安もありましたが、今では「ここでなら自分の力を伸ばせる」また、「自分の好きを極められる」と確信しています。これからの5年間で、技術者としての基礎をしっかり身に付け、“好き”がさらに広がっていく世界でさまざまな挑戦に積極的に取り組んでいきたいです。

interview

Teacher

自分と向き合う5年間

1年2組 正担任 佐藤 孝之

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。群馬高専に入学した目標や目的は何だったのか、いま一度考えてみてください。本当にやりたいことを見つけ、それに向かって努力を重ねていますか。さまざまな事情がみなさんを制限することもあるかもしれませんが、しかし、どんな障害があっても、一歩ずつ前へ進み、自分を高めていくことはできます。勉強でも部活動でも、一生懸命に打ち込むヒトはとても魅力的でしょう。

「徳は孤ならず、必ず隣有り」という言葉があります。誠実に努力し、正しい行いを重ねることは、決して一人ではなく、必ず周囲とのつながりを生み、支えとなります。そのつながりが、一人では到達できない場所へとみなさんを導いてくれるでしょう。困難に直面しても、孤独を恐れず、自分を信じて歩み続けてほしいと思います。積み重ねた努力は、必ずや自分自身を輝かせる光となるはずです。

Student

未来へはばたく

1年2組 電子メディア工学科 台原 創太

四月から憧れの高専生になり、一か月が経ちました。入学する前は中学校の同級生とは違った進路で不安でいっぱいでした。しかし、実際高専での生活を送っていくと、優しい先生、頼もしい先輩、そして個性豊かな同級生がいて私の不安を吹き飛ばしてくれました。先生がわかりやすく授業をしてくれるので90分があつという間に過ぎていきます。部活動でも念願の野球部に入部し、充実した日々を送っています。さらに高専ならではの愛好会活動や様々なコンテストにも積極的に参加していきたいです。これからの専門科目や実習や実験など新しい世界にワクワクしています。群馬高専で自分の「好き」をたくさん見つけ、未来に羽ばたけるような人材になれるよう日々努力を重ねていきたいです。



(教員左から 副担任、大金校長、正担任)



(教員左から 副担任、大金校長、正担任)

interview

Teacher

続・人との出会いを大切に

1年3組 正担任 岩田 英人

新1年生の皆様群馬高専への入学おめでとうございます。この原稿を読んでいる時は既に学校生活にも慣れてきている頃でしょう。

さて、今回の題名は学校だより第135号の題名「人との出会いを大切に」を模したものです。それはやはり人との出会いが人生にとって大きな役割を果たすと考えているためです。

高専の教員は教育者であると同時に研究者でもあります。私は現在教育者と研究者の端くれですが、特に多くの研究者が歩むべきキャリアを歩まずに今まで来ました。そんな私が現在研究者としてのキャリアを歩めているのは両親をはじめ、指導教官や研究室の先輩や同期・後輩、そして親友からの様々な面での助言や叱咤激励があったためです。

皆さんにとって群馬高専での人との出会いが今後の人生にとって実りあるものになることを切に願うのと同時に、私自身が皆様の人生に良い影響を与えられれば幸いです。

Student

自由な時間

1年3組 電子情報工学科 飯塚 一路

私たちは4月6日に群馬高専に入学し、晴れて群馬高専の学生になることができました。電車通学や90分授業にも段々と慣れてきて、入学時にあった不安が少し取り除かれてきました。数週間、高専で生活を送っていて中学の頃と比べて自由な時間というものが増えた気がします。その自由な時間を使って、午後に友達と遊ぶ予定を入れたり、少し高専の近くを探検したりしてとても楽しい日々を送ってきました。勘のいいみなさんや先輩方は気づいているかもしれませんが、いままではこの時間を使って勉強を一切してきませんでした... なんとこの自由な時間は遊びだけでなくレポートや勉強の時間にも充てなければいけないものだったのです。これからはこのようなことにならないように遊びと勉強の時間の配分を考え、充実した学生生活を送りたいと思います！

interview

Teacher

新しい一歩です

1年4組 正担任 熊谷 健

入学式の日、朝早く教室に集合しました。皆さんがこの素晴らしい日に、不安と期待でいっぱい、これからの群馬高専での生活を想像していたことを思い出します。皆さんが緊張している中、リラックスしてもらおうとBGMを流しました。♪ありがとう。理由は何もないんだよ。あなたという人がいることでいいんだよ♪ 保護者の方々はそのような気持ちでこの日を迎えたのではないのでしょうか。家族に支えられ、公教育のもとで様々な方々に支えられて、ここまで辿りつきました。義務教育を脱して、自分の夢に向かって邁進する一歩です。つらいことの方が多いかも知れませんが、充実した日々が待っています。未来の自分を想定しながら、一步一步歩んでいきましょう。困ったときには気軽に相談してください。よろしくお願いします。

Student

行動力

1年4組 物質工学科 川田 結花

入学してまだ日は浅いけれど、日々の授業の中で中学までとは進み方や雰囲気が大きく異なることに戸惑いを感じることがあります。長い90分の授業時間や専門科目の学び方について悩むこともあるけれど、小さな理解の積み重ねが自分の力になっていることを実感します。疑問に感じたことが少しずつ理解できるようになった瞬間や、昨日より前に進めたと感じる時間はとても有意義なものです。友人と話し、それぞれの趣味について話すことで新たな視点を発見することにもつながります。その視点と出会う時間は、将来の自分を育む糧になると思います。自分の学びたいこと、なりたい姿を想像して行動することで続ける力を養うことができると思います。これからも迷いながらも前向きに挑戦し、高専で充実した日々を積み重ね、目標に向かって頑張りたいです。



(教員左から 副担任、大金校長、正担任)

interview

Teacher できないことを できるようにするところ

1年5組 正担任 **碓氷 久**

学校で勉強することについて、各自が自分のできるのであれば、学校に来なくてもいいわけです。できないことをできるようにするのが学校です。だから、簡単にはできないことがあるのが当たり前です。できないことがあるのが当たり前ですが、できないままでいい、と思ってはいけません。それでも、学校に来る意味はなくなってしまいます。できるようになるよう、勉強していきましょう。もちろん、すぐにはできないこと、少し頑張ってもできないこと、一生懸命頑張ってもできないこと、そんなことがいっぱいあります。そういうときは、周りを頼りましょう。私たち教員はそのためにいますし、周りの仲間も力になってくれるでしょう。逆に、仲間の手助けをすると、自分のためにもとても良い勉強になります。お互いに助け合って、高め合っていけると、それはもう、楽しいです！

Student 新しい一歩を踏み出して

1年5組 環境都市工学科 **大堀 未奈**

令和8年4月6日、第65回入学式が行われ、本科合計209名の一年生が群馬高専に入学しました。大きな期待と少しの不安の中で、私たちの学校生活が始まりました。最初は緊張した雰囲気もありましたが、次第に打ち解け、教室には笑い声が広がるようになってきました。授業では、中学校の頃よりも長い90分という時間にも向き合いながら、それぞれが志に向かって真剣に学びに取り組んでいます。放課後には、部活動や愛好会などの課外活動にも積極的に参加する学生も多く、自分の興味のあることに挑戦しやすい環境が広がっています。高専ならではの活動も多く、どれに入ろうか迷うのもまた楽しさのひとつに感じました。まだ始まったばかりの高専生活ですが、これから楽しいことも大変なこともたくさんあると思います。しかし、仲間とともに支えあいながら一日一日を大切に過ごし充実した5年間にしていきたいと思っています。



(教員左から 副専攻科長、大金校長、専攻科長、副専攻科長)

interview

Student 専攻科入学

生産システム工学専攻 1年 **根岸 慧伍**

専攻科に入学してから、これまで以上に学びの幅が広がり、充実した毎日を送っています。授業では本科で学んだ内容を土台として、より専門的で高度な知識を学ぶ機会が多くあります。そのため、復習をしながら理解を深める必要がありますが、新しい知識を身に付けていくことに大きなやりがいを感じています。

また、特別研究では自ら課題を見つけ、考えながら研究を進める力が求められます。思うように進まないこともあります。その分、問題を解決できたときの達成感は大きく、日々成長を実感しています。

周囲には意欲的で優秀な学生が多く、その姿から良い刺激を受けています。お互いに切磋琢磨しながら学べる環境に感謝し、自分自身もさらに成長できるよう努力していきたいと思っています。専攻科での学びを大切に、充実した学生生活を送っていきたいです。

Student 延長戦突入

環境工学専攻 1年 **上村 正史**

「どこの大学？」という問いに対し、説明に困ってしまう。そんな振る舞いにも慣れてしまった自分があります。

4月6日、本科の卒業式からわずか半月後に、同じ場所で専攻科の入学式を迎えました。見慣れた校舎や先生方、通学路など、新鮮さはほとんどありませんが、専攻科生として踏み出す一歩は、5年前の不安とは違い、前向きな気持ちを伴うものでした。

さて、専攻科での生活が始まり早1ヵ月。授業の速度や課題の多さは本科を凌ぎ、その険しさを痛感する毎日です。しかし、本科での研究を、慣れ親しんだ環境でさらに2年間延長できるということは、専攻科の大きな強みだと感じています。

最後にはなりますが、本科での経験を基に、より幅広い知識や専門性を身につけ、納得のいく成果を積み上げていく。そんな充実した2年間にしていきたいです。

〈入学・進級特集〉教職員より（各学科・教育研究支援センター）

何ごとも多様性が大事

一般教科長（人文科学） 宮川 剛

福沢諭吉の代表作『文明論之概略』は、西洋文明から学ぶことの必要性を説いた著作ですが、西洋文明が進歩した原因として、その「多様性」を挙げています。中国などと違い、西洋中世では権力が君主に集中せず、貴族、教会、都市などに分有されていました。経済も農業一辺倒ではありません。その結果、諸集団の間の交渉や駆け引きが必要となり、社会が複雑化し、進歩していきました。換言すれば、「多事争論」が進歩を生んだのです。



「多様性が大事」というのは勉強についてもあてはまるのではないのでしょうか。各所属学科の専門知識一辺倒になってしまわないように、国語、英語、社会、体育といった人文の科目もバランスよく学ぶことが大事です。いわば、頭の中に「多事争論」の状態を作り出すのです。その後「進歩」が生まれてくるかどうか、これはみなさんの努力次第ということになるのでしょうか。頑張ってください。

機械工学科の新入生のみなさまへ

機械工学科長 平社 信人

新入生のみなさん、保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。

機械工学科では、四力（よんりき）と呼ばれる力学を中心とした材料力学、熱力学、流体力学、機械力学などの専門科目をはじめメカトロ系科目などを学習します。また、工作実習などの実技科目や、設計製図などの実践科目も充実しており、機械工学科棟のとなりにある実習工場で、機械設計に必要な技能についても習得します。



機械工学科では、4年生の12月頃になると、卒業研究のための研究室配属が行われ、それぞれ多岐にわたる研究分野を専門とする教員から、研究指導を受けます。基盤研究や要素技術を取り扱う研究分野もあれば、幅広い分野を融合した横断的研究分野もあります。みなさんの実現したい夢のお手伝いができればと思います。5年間、楽しい高専生活にしていきましょう。

（つねひごろ）勉強していますか

電子情報工学科長 大境 聡

入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。学校だよりが発行されるのは6月の下旬で、ほぼ前期中間試験の成績が確定している時期ですね。はじめての中間試験はどうでしたか？ 普段の授業でノート取って、試験前にノートを見直して試験に挑んだ となっていないでしたか？ 授業が進んでくると、理解しきれないけどひとまずノートを取る（または取りこぼす）となってきた、試験前にノートを見ても全然理解できない状況となります。それでも試験前に丸暗記すると試験は乗り切れてしまうかもしれません。でもこれだと試験後には内容をスッと忘れて



ます。2年後期や3年あたりで破綻するかもしれません。高学年の教科では低学年の教科の内容は理解しているものとして進むからです。ノートを取って安心するのではなく、ましてノートを取れずに放置するのではなく、その日の授業内容を理解するよう日々勉強していきましょう。

千里の道も一歩から

環境都市工学科長 永野 博之

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんがこの文章を目にする頃には中間試験も終わり、何だかいっぱいボタンが付いた関数電卓にも少しずつ慣れてくる頃だと思います。何かの暗号にしか見えないボタンも、学年が進むにつれて意味が明らかになり、謎だった機能が解放されていくでしょう。使い込めば、これから皆さんを待ち受ける数々のレポートや定期試験との戦いをともにくぐりぬける心強い相棒となるはず。学年が進むと、表計算アプリや生成AIなどの利用により出



番が減るかもしれません。しかし、電卓を駆使した手計算スキルは技術者にとって大きな武器になります。問題を解釈する、計算しやすいように工夫するといった前提スキルが磨かれるからです。皆さんはこれから5年間かけて、段階的に学びを深めていきます。手を動かしながら一つずつ理解を積み重ね、試行錯誤しながら挑戦する姿勢を大切にしてください。そのような姿勢こそが、将来、社会を支える技術者として踏み出す確かな一歩となるでしょう。丁寧に学ぶことを心がけながら、頑張ってください。

「わからないことをわかっていないと、わからないことはわかりません」

一般教科長（自然科学） 宇治野 秀晃

これは、今年の1月から3月にかけて放送された、松山ケンイチ主演のNHKドラマ10「テミスの不確かな法廷」（原作：直島翔）で、主人公の裁判官・安堂清春が繰り返し語るセリフです。自分がまだ分かっていないことを、まず切り分けて把握することが、その「分かっていない」を、これから分かるようにするためには必要だ、と言い換えることができると思います。

本校における学びの中で「こんなのわかんないよ」と愚痴りたくなることが、きっと何度もあることでしょう。でも「こんなのわかんないよ」は立派な前進なのです。だって「わかんない」ことが「こんなの」だと切り分けることができたのだから。そこで諦めず、「こんなの」が何なのか、忘れないうちにもう少し粘ってみてはいかがでしょうか？

「こんなの」と向き合うみなさんの姿を楽しみにしています。



ご入学おめでとうございます ～電子メディア工学科教員紹介～

電子メディア工学科長 富澤 良行

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

電子メディア工学科（E科）は、エレクトロニクスに関連する分野の学問を行う学科です。E科は、「社会の変革に負けない技術者を育てる」ために、基礎学力の習得に重点を置いた講義や実験実習を行い、将来的に成果が生活に役立っていることが実感できる学科です。一緒に頑張ってください。

では、写真を元に今年度のE科教員名（学生と関わる公務・部活顧問）を紹介します。前列左から布施川（1E担当・就職担当・硬式野球部）、林（2E担当・学生相談室委員・バドミントン部）、富澤（5E副担任・学科長・電算部・将棋部）、中山（3E担任・バドミントン部）、五十嵐（4E担任・4E進学担当・バレーボール部）、後列左より辰巳（4E副担任・ソフトテニス部）、市村（国際交流室員・硬式野球部）、塚原（5E担任・5E進学担当・卓球部）、佐々木（教務主事・無線通信愛好会）、松本（副専攻科長・バスケットボール部・無線通信愛好会）となります。1年間よろしくお願いいたします。

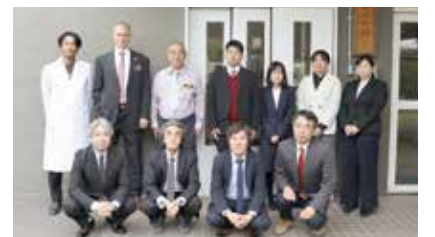


物質工学科から新入生の皆さんへ

物質工学科長 羽切 正英

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。物質工学科教員一同、皆さんを心より歓迎いたします。これから皆さんが物質工学科で学ぶ化学や生物工学は、目に見えない原子や分子、さらには生物のミクロな世界を理解し、材料、環境、医療、食、エネルギーなど、社会の多くの課題にもつながる学問です。つまり、皆さんがこれから身に付けていく知識や技術は、身近な暮らしから最先端の科学技術まで、さまざまな場面で役に立っていきます。これからの五年間で、座学や実験を通して化学や生物工学をしっかりと身に付け、さまざまな課題を解決できる技術者や研究者を目指していきましょう。

近年、AIやデータ科学の発展によって、新材料の探索や開発、バイオ技術も大きく変わりつつあります。その一方で、確かな基礎を持ち、自分の手でものごとを確かめることができる人の価値は、きっと変わりません。学問や科学技術の成長の傍観者になることなく、自身が将来その一端を担う人になれるよう、頑張ってください。私たち教員も、皆さんの成長を全力でサポートしていきます。



実践的な教育のために

教育研究支援センター長 宮里 直樹

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。群馬高専には、授業の支援や教員の研究を支援する“教育研究支援センター（以下、支援センター）”があります。支援センターには、様々な専門分野の技能を身につけた技術職員と、知的財産に詳しい産学官連携コーディネータが所属しています。群馬高専で学ぶ実験や実習といった実践的な教育は、5年間継続的におこなわれるカリキュラムになっています。これらの教育は、教員だけではなく、技術職員の方々の学生に寄り添った指導により成り立っています。実験や実習を安全に行い、学生が高い技術力を身に付けられるように、適切な助言を与えてくれます。高専らしい学びであり、高専のメリットの一つだと思います。実験や実習で困ったことなどありましたら、ぜひ教育研究支援センターの職員にも声をかけてください。



人生最大のチャレンジ



電子メディア工学科 講師
辰巳 由樹

電子メディア工学科の講師として着任しました辰巳由樹です。3月までは、フラッシュメモリ製造会社のプロセスエンジニアでした。皆さんが手にしているパソコンやスマホ

のストレージにも、私が携わった製品が使われているかもしれません。半導体人材不足と言われる今、学生の皆さんに興味を持ってもらえるように私の経験を伝えたいと思いますし、逆に高専のことは教えてもらいながら、お互いに成長していければと思っています。

民間企業で積み上げた成果や肩書を一度リセットして教員になったことは、私の人生にとって最大のチャレンジです。若い学生の皆さんには、失敗を恐れず色々なことにチャレンジしてほしいですし、サポートさせていただきます。

趣味はテニス、野球観戦、将棋、犬の散歩です。かわいいチワワを飼っています。いつでも居室に遊びに来てください。

水を通して社会を考える



環境都市工学科 講師
小寺 博也

はじめまして。このたび環境都市工学科に着任いたしました小寺博也です。これまで地下水を飲み水にする技術や排水処理など、水処理の研究開発に携わってきました。

水は毎日の生活に欠かせないものですが、普段はあまり意識されることが少ない存在でもあります。しかし実際には、微生物のはたらき、化学反応、装置の仕組み、地域の水事情など、さまざまな知識や条件が関わっています。私自身もまだ学びながらではありますが、水を入口にして社会や環境について学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。授業や研究では、手を動かしながら確かめる経験を積んでもらえたら嬉しいです。

着任したばかりで不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

着任の挨拶

よろしくお願いします



事務部長
青山 文彦

4月1日付けで事務部長に着任いたしました。私自身が入職したのは国立大学で、その後は大学共同利用機関、文部省、放送大学、独立行政法人、国立大学法人等の勤務を

経て、平成29年4月から3年間群馬大学に勤務させていただきましたので、群馬県での勤務は7年ぶりとなります。高等専門学校の勤務は初めてではありますが、学生、教職員の皆様に少しでも貢献できればと思います。先日の入学式では新入生の初々しい姿、そして後援会の理事会への出席させていただいた際には保護者の熱意が感じられ、私自身しっかりとしなければならぬと身が引き締まる思いです。本校の「科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する」という教育理念を先生方と一緒に取り組んでいければと思います。よろしくお願いします。

就任のごあいさつ



総務課長
高橋 弘

このたび、総務課長を拝命いたしました。日頃より、本校の教育活動に対し、保護者の皆さまのご理解を賜り、心より御礼申し上げます。総務課は、学校運営の基盤に関わ

る部署として、諸制度や体制の整備、組織運営に関する調整などを通じ、学校全体を支える位置づけにあります。教育活動が円滑に行われるためには、教職員が安心して職務に取り組める環境が整っていることが重要であり、その基盤を整えることが総務課の重要な責務であると考えております。こうした視点を踏まえ、校内の状況に目を配り、関係する部署との連携を図りながら、学校運営が安定して進むよう取り組んでまいります。年度の始まりにあたり、これまで本校で積み重ねられてきた取組や考え方を尊重し、安定した学校運営の継続に努めてまいります。

退任の挨拶

退任のご挨拶

前一般教科（自然科学）准教授 **成子 篤**



このたび、3月末をもちまして群馬工業高等専門学校を退職することとなりました。

一年間という短い期間ではございましたが、教職員の皆様をはじめ、学生の皆様、保護者の皆様、ならびに関係者の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

高等専門学校での勤務は初めてであり、至らぬ点も多く、教職員の皆様にはご不便やご迷惑をおかけいたしました。その都度丁寧にご教示いただきましたこと、深く感謝申し上げます。また、学生の皆様の学びに対する情熱とひたむきな姿勢から、多くのことを学ばせていただきました。群馬での経験は、私にとって大変貴重なものとなりました。

4月からは福井県の高等専門学校にて物理の教員として勤務いたします。群馬で得た経験を活かし、今後も教育・研究に誠実に向き合いながら精進してまいります。

末筆ながら、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。

【令和8年度】本科・専攻科学校行事一覧

4月	6日	(共) 入学式
	7日	(本) 始業式、新入生歓迎会
	8日	(共) 授業開始
	8日～9日	(共) 健康診断
5月	8日～9日	(本) D-CON
6月	3日～9日	(本) 前期中間試験
	18日	(共) 球技大会
7月	24日～30日	(本) 前期定期試験
	31日～8月6日	(専) 前期定期試験
8月	7日～9月24日	(専) 夏季休業
	17日～9月14日	(本) 夏季休業
9月	15日～18日	(本) 4年生社会見学旅行
	16日	(本) 3年生研修旅行
	17日	(本) 1年生研修旅行
	18日	(本) 2年生研修旅行
	20日	(本) ロボコン地区大会
	25日	(共) 後期授業開始

10月	10日～11日	(本) プログラミングコンテスト
	17日	(本) 1～4年生保護者対象説明会
	23日	(共) 体育祭
	26日	(共) 防災訓練
11月	7日～8日	(本) デザインコンペティション
	14日	(本) 英語弁論大会
	15日	(本) ロボコン全国大会
	18日～25日	(本) 後期中間試験
12月	13日	(共) 芸術鑑賞会
	25日～1月4日	(共) 冬季休業
1月	5日	(共) 授業再開
	19日	(専) 特別研究Ⅱ発表会
	20日～21日	(本) 卒業研究発表会
	28日～2月3日	(本) 後期定期試験
2月	4日～10日	(専) 後期定期試験
	19日	(専) 特別研究Ⅰ発表会
3月	1日～31日	(共) 学年末休業
	19日	(共) 卒業式・修了式

本：本科／専：専攻科／共：共通

売店リニューアル

学内コンビニ

学生主事 **高橋 徹**

令和8年度より、本校の売店がリニューアルされ、「ヤマザキYショップ群馬高専店」がオープンしました。大学のキャンパスではコンビニエンスストアの設置も珍しくなく、本校においても売店のコンビニ化を望む声が寄せられていましたが、今年度より実現の運びとなりました。ヤマザキショップは、食品メーカーである山崎製パン株式会社がチェーン展開している小売店舗で、病院・企業・学校などへの出店実績も豊富です。今回のリニューアルにより、学生・教職員の皆様に、より便利でより快適にご利用いただけるよう、サービスや品揃えを一新しました。パン・菓子類・飲料・日用品など、幅広い商品を取り揃えており、皆様のキャンパスライフをサポートします。

営業時間は8時30分から17時まで（13時から14時は閉店）です。土日祝日および長期休業期間は休業となります。既にご利用された方も、まだ利用されたことがない方も、この機会にぜひ売店に足をお運びください。



各施設から

学生相談室

学生相談室を利用してストレスをコントロールしよう！ 学生相談室長 伊藤 文彦

私たちは日々ストレスというものを抱えています。適度なレベルのストレスであれば、それを乗り越えようとする力を発揮するので、自己の成長に少なからず役立ちます。しかし、ストレスが多すぎてしまうと、体力・精神的な疲れから、自分のペースが崩れてしまうことがあります。「ストレスが多いかな、不安だな」、「心や体が不調かもしれない」などと感じた時は、迷わず学生相談室を利用し、健康な心身を取り戻してください。

最近、オーバードーズ（OD=overdose=市販薬の過剰摂取）が社会問題となっています。大量の風邪薬や咳止め薬を一度に服用してしまうと、脳や肝臓をはじめとする臓器に悪影響を与えてしまい、健康を害してしまいます。薬は正しい処方で使用してください。さて、今号では新しいカウンセラーの白鳥浩丈先生をご紹介します。



ソーシャルワーカー
(精神保健福祉士・公認心理師)
白鳥 浩丈

●相談室カウンセラー紹介

スクールソーシャルワーカーの白鳥です。普段は県内の大学で社会福祉の教員をしており、障害のある方へのサポートに関する教育と研究に従事しております。対人支援の資格としては精神保健福祉士、公認心理師、キャリアコンサルタントの資格を持っていますが、高専では学生個人の内面のみならず生活社会環境への働きかけを視野に入れたソーシャルワークの視点で、学生の相談に応じたいと思います。よろしくお願いいたします。

学生相談室を利用しよう

＜学生相談室を利用するには＞

- ◆保健室に連絡してください。
☎027-254-9065
- ◆保健室が不在の際は、インターカーに連絡してください。
インターカー 学生課学生支援係
☎027-254-9058 (学生支援係インターカー)
※インターカーとは…
相談を希望する学生や関係者の話を最初に聞き、援助のしかたを判断する人のことです。
話の内容によって適切な相談先(カウンセラー・相談室員・校医など)に取りつぎます。
- ◆電子メールでも予約できます。
✉ soudan@gunma-ct.ac.jp
- ◆ご家族の方からの相談も受け付けています。

＜開室日と担当者＞

- 月曜日 14:00～17:00
中村カウンセラー
15:00～18:00
坪田カウンセラー
※2F学生相談室にて開室
- 火曜日 13:00～17:00
白鳥ソーシャルワーカー
※第4週のみ 12:30～15:30
- 水曜日 14:00～17:00
坪田カウンセラー
※毎月第1・3水曜日開室
- 木曜日 15:00～18:00
中村カウンセラー
- 金曜日 14:00～17:00
内山カウンセラー
- 相談室長・相談室員への相談は、
教員室や保健室でもできます。
- 不定期(必要に応じて)*要予約
河合カウンセラー

図書館

図書館での新たな気づき

群馬高専図書館には、各学科の専門分野に関する蔵書が約2万6千冊、数学、物理学など自然科学に関する蔵書が約2万7千冊、それから、文学、芸術など人文科学に関する蔵書が約4万冊、その他のものもあわせると、11万冊以上の蔵書が収蔵されています。これらは、学生用図書の推薦、学生からのリクエストやブックハンティングなどを通じ、時代の変化に対応できるように蔵書数を更新し続けています。

多くの学生の皆さんは、日々の勉学の助けに図書館をご利用いただくことが多いと思います。とりわけ、文学作品の例がわかり易いと思いますが、どのような蔵書にも、著者の考え方が深く反映されていることに気づくと思います。このような蔵書の読書体験を通して、人生に係わるような、大切な、新たな気づきを得ることもあるのではないかと思います。ぜひ、色々な蔵書との出会いを大切にいただきたいと思います。

図書館長 雑賀 洋平



国際交流室

群馬高専史上、今が最多人数です！

短期・長期語学研修、「トビタテ！留学JAPAN」、さらに今年度は台湾研究室訪問が加わりました。過去最多人数の学生が海外研修に参加しています。高専機構本部が「グローバルエンジニア育成事業」を推し進めています。支援金も最大です。皆さんには国内国外問わず、英語を使いながら活躍する未来が待っています。英語マニュアルが与えられたり、様々な技術において英語で説明することが求められるでしょう。その基礎となるのは英語力。会社でTOEIC成績の向上も要求されたりします。多くの学生が海外に一步踏み出しています。恐れずに外の世界を経験してみましょう。「イングリッシュ・カフェ(放課後の英会話教室)」や留学生交流会に参加するのも良いでしょう。様々な方法でグローバルな感覚を身につけていってください。

国際交流室長 熊谷 健



ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進室から

「ダイバーシティ (Diversity)」とは何でしょうか？聞き慣れない単語かもしれませんが、英和辞典などで調べると「多様性」と訳されます。ダイバーシティ推進室は、個々の多様性を理解・尊重し、互いに敬意を払える環境づくりを推進する部署です。近年、国際的な人材の流動化などにより、異なるバックグラウンドや価値観をもつ人々が関わり合う機会が増えており、多様性を受け入れて力に変える姿勢がこれまで以上に求められています。

しかし現実には差別・偏見などによって多様性が認められていない場面も少なくありません。いつの日か、互いの相違点や多様性を当たり前で認められるようになり、「ダイバーシティ推進」という言葉が特別な意味を持たなくなる日が来ることを願いつつ、目の前の課題に一つ一つ対処していきたいと思っています。

ダイバーシティ推進室長 高橋 徹



情報基盤センター

BYOD2年目

新入生のBYOD (Bring Your Own Device) 制度導入2年目となりました。学生BYOD端末は本校での様々な学びのシーンで利活用できます。例えば、HR教室などでも申請済みの端末を校内無線LANに接続できます。学生BYOD端末を学内で利用する際には基本、バッテリー駆動での利用を想定しています。事前にバッテリーを充電した状態で使用するにしましょう。なお、第2演習室ではBYOD端末用に電源タップが設置されており、学生も利用できます。学内施設や学内ネットワークは共同利用資源です。利用者はルールを守ることに加え、モラルやマナーも問われます。特に、学生に対しては「学習環境」として提供しています。掲示等をよく確認のうえ、目的外利用は控えましょう。

学生による自由な学びの環境を確保するためにも、適切なICT学習環境の運用・維持にご理解とご協力をお願いします。

情報基盤センター長 川本 真一



インターンシップ支援室

受け身ではなく自ら参加する意思を持って！ インターンシップ支援室長 出口 米和

みなさん、こんにちは。令和8年度のインターンシップ支援室はE科の布施川先生、C科の永野先生、学生課の杉山さんと一緒に担当していきます。永野先生、杉山さんは今年からご担当していただきます。よろしくお願いします。

インターンシップ説明会でもお話ししましたが、群馬高専では「学生」であっても、インターンシップ先では一人の仕事をする人として対応されます。お客さん気分であったり、黙っていても周りが実習を進めるだろう、指導の方が言う事だけやっておこうなどという「受け身の態度」ではいけません。自らが選択した実習先です。積極的に実習に参加することを忘れないでください。

インターンシップ支援室ではこれまでと同様に、参加する学生のみなさんの安全を最優先して取り組ませていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



進路支援室

進路支援室より 進路支援室長 中山 和夫

進路支援室は、学生の進路に関する情報の収集を主に行っており、国公立大学の編入学試験の過去問を取り寄せ、図書館に保管するようにしています。HP上で公開する大学や口頭試問のみの大学も増えてきて、図書館に保管できる過去問が少なくなっていますが、取寄せ可能な大学では過去5年分の問題を揃えているので、進学を目指している人は活用してください。

また、今までの5年生が作成してくれた、「専攻科進学・大学編入学・就職試験受験報告書」を図書館と学生課および進路支援室Teamで保管しています。この報告書は面接や口頭試問の様子などがわかる貴重な情報ですので、現5年生の人はそれぞれの受験が終わったら、受験報告書を作成して担任など各科の担当教員に提出してください。



産学連携アントレプレナーシップ教育工房

アントレプレナーシップ教育工房が利用できます アントレプレナーシップ教育工房長 宮里 直樹

群馬高専には、アントレプレナーシップ教育工房（以下、工房）として、情報基盤センターの建物の中に「トライアルファクトリ」と群嶺会館2階に「リアライズスタジオ」があります。「トライアルファクトリ」には工作機械や3Dプリンタなど、皆さんのアイデアを具現化し試作する場としての機能が、「リアライズスタジオ」には情報デジタル分野のアイデアを熟成させ具現化する機能があります。工房では、教育研究支援センターの技術職員や産学官連携コーディネータが学生を指導・支援しています。導入機器の講習会も毎年10回以上開催されています。工房は皆さんのチャレンジを、夢の実現を補助する場所です。これまでもDCONや高専起業家サミットなど様々なコンテストにも工房を利用した学生チームが参加しています。コンテスト以外の目的でも、開設以来、多くの学生が利用しています。皆さんも、アイデアの具現化に向けて積極的に利用してください。



地域連携テクノセンター

地域とともに学び、地域とともに成長する 地域連携テクノセンター長 石川 英司

群馬高専の地域連携テクノセンターは、本校と地域社会を結ぶ大切な窓口として、企業・自治体・大学・研究機関との連携を推進しています。地域の課題に耳を傾け、本校の教育・研究の力を生かしながら、ともに新しい価値を生み出すことを目指しています。

本センターでは、共同研究や技術相談への対応に加え、地域企業の皆様との交流を深めるセミナーや講演会なども企画・実施しています。こうした取り組みは、地域産業の発展に貢献するだけでなく、学生にとっても社会との接点を持ち、自らの学びの意義を実感する貴重な機会となっています。

これからも地域連携テクノセンターは、地域と学校をつなぐ“ハブ”としての役割を大切にしながら、地域とともに歩み、未来を担う技術者の育成に力を尽くしてまいります。



NEWS&TOPICS

短期語学研修

これがッ オーストラリアかッ!!!

2K 下境 悠晟



高専生活が始まり約一年が経った頃、この短期海外語学研修へ参加した。この研修を通して英語に対する意識だけでなく、世界への見方も大きく変わった。日本を出て、日本語の通じない国で一週間過ごすことは自分にとって全く新しい体験だった。全て英語で書かれた看板、見慣れない街の景色、何もかもに圧倒された。そして、国籍も母国語も文化も異なるホストファミリーと、英語での対話を通じて親交を深めていった。相手の文化を知ろうとする姿勢、そして自分の国の文化を伝えようとする姿勢を大切にすることで、異文化交流を心の底から楽しむことができた。また、自分の気持ちを表現しようとすると同時に、思いを言葉にできないもどかしさを痛感し、自らの英語力の未熟さを再認識させられた。研修に行っただけではなく、ここからが始まりだと心に銘じ、国際交流へのさらなる歩みと語学学習に臨みたい。

電気学会東京支部群馬・栃木支所合同研究発表会

8年の集大成

令和7年度生産システム工学専攻修了生 鈴木 碧羽



この度、電気学会東京支部群馬・栃木支所合同研究発表会において優秀発表賞を受賞いたしました。2018年に群馬高専へ入学し、本科卒業後に研究生として在籍した期間も含めると、群馬高専で過ごした時間は約8年間となります。当時16歳だった私も現在では23歳となり、入学当初と比べると、少し落ち着いた視点で物事に取り組めるようになったと感じています。

本科在籍時を振り返ると、部活動や有志企画等で学校だよりに掲載された経験はある一方、個人として実績を残せたことはありませんでした。そのため、「何か小さなことでも良いので、形に残せる成果を出せたらいいな」という想いで専攻科の2年間を過ごしました。

結果として本賞を受賞できましたが、この成果は自分一人の力だけでなく、指導して下さった先生方や周囲の支えがあってこそ得られたものだと感じています。あっという間の学生生活でしたが、最後に成果を形にできたことを嬉しく思います。

自転車アジアロード選手権

アジア選手権の頂点に立って感じたもの

3C 松村 拓弥



初めてのアジア選手権は数えきれないほどの思い出がありました。タイムトライアルでは各国1人しか出場できないということから、絶対に負ける事は許されないと、スタート前に何度も自分に言い聞かせてレースに挑みました。

ゴールした後の優勝が確定となった時は、しばらく自分が勝った事を信じられませんでした。

アジア選手権の1ヶ月前に、自転車競技に対する楽しさやモチベーションを失ってしまい、自転車に乗ることすらできない時期があり、アジア選手権を諦めかけた時もありました。

それでも、家族や応援してくれる方々のおかげで気持ちを入れ替え、再び自転車に乗ることができ、アジア選手権に向けて努力することができました。

今回の優勝は、大会で帯同して下さった監督、メカニック、マッサーなどの多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。これからも更なる高みを目指して精進します。

海洋観測データ収集衛星打ち上げ

待望のリチャレンジ KOSEN-2R打ち上げ

生産システム工学専攻1年 串田 海人



4/23（木）、12時09分、高専含め計8機関のCube Satと呼ばれる超小型衛星が搭載されたロケットが、ニュージーランドから打ち上げられました。実際の打ち上げライブをロボット工学研究室を主とした開発メンバーで見届け、衛星が宇宙に飛び立つ瞬間を目の当たりにしました。私が開発に携わったKOSEN-2Rは海洋観測を主目的として、様々な技術の実証実験を行うために開発された衛星となります。そのため、製造や組み立て、試験をするにあたって、既存の経験を活かしながらも常に新しい知識を取り入れ、日々情報をアップデートしていくことが不可欠でした。今回の衛星開発を通して、宇宙教育の中でも数少ない貴重な経験ができ、我々自身も大きく成長できたと感じています。このような機会をくださった開発スタッフ、高専の関係者、衛星開発に関わった全ての方々に感謝申し上げます。これから衛星の運用が始まっていますが、引き続き応援よろしくお願いいたします。

社会課題解決のための学内アイデアコンテスト

「うるおいのヒントは、こんにゃくでした。」

3C 栗生 紗希 / 3C 野村 咲心
3C ハリソン ひかり / 3C 和田 ののか
2M 平井 菜月 / 2K 儘田 朋美

私たち「うるおい革命（チーム名）」は、群馬県の特産品であるこんにゃくに着目し、その新たな活用方法としてこんにゃくフェイスパック「RooPurun（ループルン）」を提案しました。「RooPurun」は、こんにゃくの保水性や肌へのやさしさに注目した製品です。

近年こんにゃくの消費量が減少傾向であること、群馬県は美肌ランキングで下位に位置することもあり、私たちはこの二つの課題を解決するためのアイデアに取り組みました。消費量の減少に対して、従来の「食べる」という用途にとどまらず、新たな活用方法を見出したいと考え、こんにゃくがやわらかく弾力のある素材であることから肌への摩擦が少なく、やさしく使用できること、また、天然素材であるため使用後は自然に還るという環境面での利点にも注目し、フェイスパックというアイデアにつなげることができました。

どのようにこのアイデアを形にするかに苦労しましたが、実際にこんにゃく関係の施設の見学や農家様等への聞き取りを行うなど、調査を重ね、試作を繰り返す中で、チームで意見を出し合いながら改良を重ねました。まだ試作品に改良の余地は残っていますが、実験を通して保湿効果を検証したりと、自分たちなりに満足のできる発表をすることができました。

今回、最優秀賞をいただけたことは大変嬉しく思います。この経験を通して、身近なものにも新たな可能性があること、そして仲間と協力して一つのものを作り上げることの面白さ・大変さを学びました。今後もこの学びを活かし、社会に役立つアイデアを考えていきたいです。



企業技術説明会・技術相談会

技術と出会い、未来を描く—企業技術説明会・技術相談会がひらく進路の扉

地域連携テクノセンター長 石川 英司

本校では今年度も、企業技術説明会・技術相談会を開催しました。この説明会は、群馬高専と群馬県を中心とした企業との産学連携・技術交流を促進する「群嶺テクノ懇話会」との共催事業として、平成12年から続く伝統ある取組です。今回で24回目の開催となり、第1体育館を会場に、多くの企業と学生が一堂に会する活気ある場となりました。

今年度は52社の企業にご参加いただき、本科生・専攻科生あわせて約500名の学生が来場しました。会場では、企業の担当者の皆様から、自社の技術や製品、業務内容、そして社会で求められる知識や姿勢について、熱意ある説明が行われました。学生たちは、普段の授業だけでは見えにくい「学びが社会とどうつながっているのか」を実感しながら、真剣な表情で耳を傾けていました。今回も、企業が学生に対して自社技術や製品、業務内容、就職後に必要となる技術や知識を直接伝える機会となっており、本説明会が実践的なキャリア教育の場として機能していることがうかがえます。

この説明会の魅力は、単なる業界研究セミナーにとどまらず、「技術」と「人」との出会いの場であることです。就職を目指す学生はもちろん、進学後に地元企業で活躍したいと考える学生にとっても、自らの将来像を具体的に思い描く貴重な機会となりました。地域企業の皆様の技術力と期待に直接触れることで、学生一人ひとりが自分の学びの意味を再確認し、未来への一步を踏み出す契機になればと願っています。



編集後記

今年度の授業開始日、1限開始直前、「〇〇室ってどこですか？」と声を掛けられました。とっさに答えた場所が間違っていたと気づいたのは、その学生と別れた直後でした。あの時の学生さん、本当にごめんなさい！ 何年勤務していても、失敗と反省の連続です。しかし失敗と反省の先には・・・？後悔ももちろんありますが、きっと「成長」があると信じています。皆さんも心配せず、一緒に少しずつ歩んでいきましょう。

（広報委員長 大岡 久子）